

2014年度  
埼玉地区主題

主にある交わりを  
深めよう

日本基督教団関東教区

# 埼玉地区通信

2015年3月15日  
発行人 日本基督教団 関東教区  
埼玉地区委員会  
委員長 土橋 誠  
飯能市柳町 23-8  
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/  
印刷所 (株)シャローム印刷

## 一月十二日(月) 埼玉地区新年合同礼拝

### 十一区 ↓

白岡伝道所 佐々木佐余子

一区は、上尾合同教会で開催された。司式者は金刺英雄長老、奏楽者は須田ゆかり姉であった。聖餐式は秋山徹牧師が務められた。



子どもの説教は、越谷教会の棚橋千恵美牧師。

伝道者パウロの生き方を紹介した。『パウロは罪人であり弱い人であつたけれど、イエスさまによって変えられ、大きな働きをした。体が疲れてしまつても、気持ちが悪くなくても、今こそ、その人に神が働いてくださる。』と、コリントⅡ第六章二

節から説き明かされた。

大人の説教は、大泉ベテル教会の伊藤瑞男牧師である。以下要旨。

『日本は、少子化と高齢化社会を迎えており、祈っている時に、マタイによる福音書九章三十五〜三十八節のみ言葉が与えられた。

主イエスは群衆を深く憐れまれ、会堂の外にいる人々、会堂に入れない身分の人々、また排除された人々を何とか救いたいと願われ恵みを分かちあつた。主イエスにとつて群衆は、刈り入れを待っている実として映つた。ここに主イエスの大きな幻・ビジョンが見える。我々はそれを共有することが出来るであろうか。

私は、四年前、東日本大震災を通して幻を見させていただいた。パウロがコリント伝道で見た幻で「恐れるな、語り続けよ。黙っているな。この町には私の民が大勢いる」と主は語られた。国内外から、大勢のノンクリスチャンを含むボランティアが延べ五千人以上も来て働いた。その中には台湾のクリスチャンも大勢いた。そこで思いがけない主の交わりがなされた。共に声を出して真剣に祈ることが出来た。すばらしい恵みに目を向けて伝道して行きたい』出席者一四八名・二十八教会・伝道所 (教師部委員)

### 十二区 ↓

東松山教会 野村 忠規

二区は武蔵豊岡教会を会場に開催されました。当日は晴天に恵まれ十八教会百三十一名(内小学生以下三名)が参加し、地区の教会の一致と連帯を求めてプログラムが進められました。



まず第一部は礼拝です。司会は鈴木林太郎兄(川越)、奏楽は黒田毅兄(武蔵豊岡)が担当して下さいました。

二つの説教が語られました。子どもたちに対しての説教は、「キリストの体」と題して指方周平牧師(東所沢)が、「一人ひとりの存在は大切な存在であり、また互いに助け合うつながりにある」と語られました。一般の方々には「見えない希望に生きる」と題し、最上光宏牧師(所沢みくに)が、希望を見出しにくいこの時、主イエスが示して下さいた希望をわたしたちの希望として生きよう、と語られました。その後「日本基



昨夏、思いもかけず、くも膜下出血で倒れた。礼

拝と役員会を無断で休んだ私を心配し訪問してくれた牧師と役員に見えられたまで、あの暑さの中で助けを待ってうめいていた。

九死に一生を得て、リハビリの生活が始まった。当たり前前に歩いていくことが、当たり前前な事ではないことを、歩行訓練を受けて漸く自分の身体を動かす、踏ん張って立ち続けることを通して、簡単な事ではなかったという事を知らされた。

家族の助けを得て、クリスマス前の礼拝に出席することが出来た。五か月ぶりの礼拝であつた。失つたものは多いが、信仰は奪われなかったことを感謝している。

言葉の不自由さも多少あるが、リハビリ仲間と励ましあいながら希望をもつて、さらに訓練に励み続けたいと思う。

埼玉地区での長きにわたる主にあるお交わりに感謝しつつ、今号発行時には、北海道の息子家族の近くに転居することとなった。

主の復活の喜びが、皆さんの上に豊かな事を祈りあげます。(三井田)

「督教団信仰告白」を共に告白し、野村忠規牧師（東松山）の司式、栗原清牧師（武蔵豊岡）の協力による聖餐式に共に与り、一つとされている喜びを味わう事が出来ました。



礼拝の最後には「成人の日」を迎えた若い二人のために土橋誠牧師（飯能）が祈られました。二人からはそれぞれの夢を聞くことが出来、「きみの賜物と若い力を」の讃美歌の声が会堂一杯に響きました。

日頃少人数で礼拝を守っている者たちが、一堂に集められ、一つにされている事実に触れ、深い感動を与えられました。

第二部は集会室での会食の時となり、会場教会の方々のおもてなしを受け、売店のコーナーもあり、それぞれの教会の取り組みを覚え、また応援する時となりました。

（教師部委員）

十三区

和戸教会 三羽 善次

三区は、深谷教会で開催された。



説教は北本教会の石川榮一牧師、こどもの説教は桶川伝道所の高橋悦子牧師、成人者への祈りは、久喜復活集会所の山野裕子牧師でした。

石川牧師はエレミヤの召命の箇所より、一人ひとりが神にあってビジョンを持つ事、見張り人としての使命をはっきり持つ事を語られました。その中で、ご自身が牧会されている教会の役員の方の証をお話されました。その方は、自分の妻を信仰に導くために、残りの人生すべてを捧げたいという信仰の志を持って歩まれた、とい

うのです。まことに感銘深い証でした。子どもの説教は、紙芝居を使って視覚的にも分かりやすく語られました。成人の祈りは、成人を迎えた人の出席がなく、いささか寂しいものでした。しかし今年、深谷西島教会の竹内牧師の大学生の御長男が、この日帰省中で礼拝に出席されていました。一同これからの信仰の成長を、共に祈り合わせました。礼拝後、愛餐会が持たれ会場教会の婦人会の御奉仕で、深谷ネギがたっぷり入った煮ぼうとう（うどん）を、おいしくいただきました。そして各教会の近況などが話され、和やかな時を過ごしました。

ひとつサプライズがありました。三区の教会に新年合同礼拝のご案内を出すに当たって、間違って二区のベウラ教会に案内を送ったところ、なぜかベウラ教会から四名の方が出席されていたのです。これも思わぬ恵みとして一同、笑いと拍手で歓迎致しました。このようにして、最寄りにある教会が、礼拝によって愛餐会によって、霊肉共に祝された会が与えられました。出席者八十五名。

（教師部委員）

CS教師研修会報告

坂戸いずみ教会 山岡 創

一月二十四日(土)、埼玉新生教会を会場として、CS(教会学校)教師研修会が行われました。この会は原則的に隔年で開催されています。

今回は講師を招かず、教育委員会で開催している中学生KKSキャンパスの報告と発題を、プロジェクトでキャンプの様子を映像で紹介しながら私が行いました。また、夏のキャンプでは教育委員会とリンクして行っている青年部の活動を小林あゆみさん(埼玉和光)に、埼玉二区で有志の教会伝道所によって十二年続けて行われている小学生合同キャンプの様子を森淑子牧師(狭山、教育委員)に報告、発題していただきました。

その後、三つのグループに分かれて、各自持参した昼食を共にし、そのグループで意見交換、情報交換をしていただきました。各教会の教会活動の様子や課題が意見交換されていました。どの教会でも小中学生、若者が少なくなっている現状があり、それだけでなく奉仕者自体、担い手が少なくなっている悩みがあるようです。

最後に閉会礼拝を守り、この会を終了しました。

参加は十三教会・二十一名でした。参加者が少なかったのは、講師を招いての研修ではなかったこと、宣伝案内が行き届いていなかったこと等が考えられますが、もう一つ各教会伝道所の教会学校活動の衰退という事が考えられるかも知れません。

埼玉地区だけではありませんが、『信徒の友』日毎の糧の教会紹介を見ると、CS出席者数一桁という教会が少なからずあり、休止閉鎖している教会もあります。子ども伝道、青年伝道の難しい時代ではあります。つながらず居場所を求めている子ども、青年は決して少なくないと思います。CSや青年活動に祈りつつ励みましょ

う。

（教育委員会）



（教育委員会）

### 三区合同教師会報告

和戸教会 三羽 善次

一、二、三区の最寄り教師会はそれぞれ隔月に持たれていますが、地区内の教会に仕える教師が一同に集まるのは、七月の研修会とこの合同教師会です。これは貴重な集会の時と心得て、教師委員会では毎年、会の企画をしてみました。今回は三十名の教師の参加がありました。

今年度は、愛泉教会を会場にして、最初に森田弘道牧師の説教による開会礼拝から始められ、その後、金城学院大学教授の深井智朗先生による「現代の神学的状況」と題された神学講演がなされました。

講演の主旨は、①わたしたちの世界、特に日本は極めて宗教に対して無感覚な様相を呈している一方で、教会抜き信仰、信仰抜きで聖書を好む人々が多い事を、教会はしっかり知っておくべき事。②教会の中にすらその様に傾く事に注意し、信仰告白にしっかり立ち続ける事。③人々は救いへの渴望があることを教会が、はっきり知っておくことから伝道への使命が新たにされる事。  
わたしたち教師にとって、気

づかされることの多い示唆に富んだ講演でした。

講演後の昼食の席で、各教会の近況等が話されました。深井先生は埼玉大通り教会のご出身であり、地区内の教師との関わりも多く、栗原清牧師、山岡創牧師とは同年であり、KKS キャンプの頃の話も思い出深く語られました。

昼食の後、社会福祉法人「愛の泉」が運営している介護施設を見学させていただきました。施設の中でどのようにして、その人らしく過ごせるかが大切であり、その一環として各人の好みの食事メニューを出す試みもされている紹介がありました。

終日、教師の学び・交わりが豊かに与えられ感謝でした。  
(教師部委員長)

### 信教の自由と平和を 求める2・11集会報告

川口教会 本間 一秀

二月十一日、聖学院大学礼拝堂にて「2・11集会」が行われ、聖学院大学学長の姜尚中氏による講演「悪と愛について」から聞いた。

姜氏は戦前の日本の状態と、

現代の世相と比較した。『イスラム国』などの世界情勢などを挙げて、「悪について」の危険を述べられた。人々が悪に染まる理由に「格差、貧困で傷つき、生きる術がない人が、空疎さを埋めるために、テロ、暴力に走る。若者は、満たされないものを抱え、国家に寄りかかり、靖国参拝、偶像崇拜に走る。

これはフランスの移民排斥、ドイツの反イスラム運動、ネオナチにも通底する」と。そして「空疎さを満たすものは神の愛」と強調された。「追い詰められた若者たちは、『イスラム国』に向かってしまう。愛なくして、我々の信仰は成り立たず、国家に抗う力は与えられない」と述べられた。

「歴史は繰り返される。戦後七十年の今年、福音で結集し、孤独ではない、という思いで一年を過ごしたい」と結んだ。有意義な集会でした。出席二五一名。  
(社会委員長)

が開催されました。寒い日でしたが、子どもたちは元氣一杯秋の一日を楽しみました。参加者は八教会六十五名でした。

開会礼拝は、森淑子牧師(狭山)で、「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ五章九節)から平和の実現のためにわたしたちができることは何かを考え、それは人に対して心に恨みを持たないことだとイエス様が教えてくださったているのだと語りました。

その後、参加した教会の紹介と、クイズ・ゲームなどの交流の時間を持ち、各教会から出されるクイズでは正解多数の人には賞品がでると聞いて大いに湧き、子どもたちは一所懸命に考え楽しみました。

昼食の後は自由時間でした。教会を超え、年齢を超えて「だるまさんが転んだ」を時間が経つのを忘れるほど楽しみ、良い交流ができました。

今年、かつて小学生だった子どもが高校生、青年になって、引率者の一人として参加し、自分の教会だけでなく、他教会の子どもたちの世話をしてくれている姿に、感激しました。成長させてくださる神に感謝します。

### 埼玉地区CS生徒大会報告

狭山教会 森 淑子

十一月三日(月)、国立武蔵丘陵森林公園にてCS生徒大会

### 第四十二回埼玉地区 教会全体修養会ご案内

修養会委員長 末 永廣

二年ごとに実施される地区の全体修養会を左記の要領で行います。

#### ◎開催日

二〇一五年八月三日(五)

#### ◎会場

軽井沢南ヶ丘倶楽部

#### ◎主題

「主にある交わりを深めよう」―教会における様々な関係から―

#### ◎聖書

ヨハネによる福音書

八章十二節

#### ◎講師

窪寺俊之先生

聖学院大学教授・こども心理学科長

開催は、会場の都合により八月第一週の月曜日から水曜日となりました。慌ただしいことはいなめませんが、この行事が地区全体の伝道推進の機会となり、良き交流の時となりますように、修養会委員一同、祈りつつ準備を進めております。  
地区諸教会の皆様の大勢の参加を心よりお待ち申し上げます。ご案内いたします。

# 特集

## 埼玉育児院の紹介

院長 金子 和夫

し、新規事業としてトワイライ  
ト事業(夜間保育)、ショートス  
テイ事業(短期預かり事業)、  
土・日曜日電話相談事業の新  
しい事業を川越市の要請に応  
じて展開し始めています。



埼玉育児院は大正元年十月  
天台宗安養寺の住職小島乗申  
氏が、保護者のいない児童を集  
めて世話をしたことからは始  
まりました。その後、昭和三年に  
現在の川越・笠幡の地に引ッ  
越し、昭和七年より就任した河  
東田教美院長の信仰の下、養育  
方針をキリスト教主義に転換  
し、院長が「感謝・希望・勤勉」  
という言葉をもットーに子ど  
もたちの養育を進めてきまし  
た。おかげさまで三年前、埼玉  
育児院は百周年を迎え、盛大に  
百周年のお祝いをさせていた  
だきました。

その際に管理棟の新設、児童  
棟二棟の改築を行い、これから  
は地域に開かれた施設をめざ



子どもたちの生活について  
は「子どもが安心・安全・安定  
した生活」をもットーに、六人  
〜八人の小集団で地域のグ  
ループホームを合わせて九  
ホームで六十六人の子どもた  
ちが生活をしております。  
子どもたちの八十%がネグ  
レクト(育児放棄)、身体的虐待、  
心理的虐待、性的虐待を受けて  
ここにきています。この少子化  
の中、みなさまはなぜ虐待が増  
えているのかと疑問に思われ  
るかもしれませんが、非正規雇

用による生活難、離婚によるひ  
とり親家庭の増大など、子ども  
たちにしわ寄せがいつている  
事は否めません。虐待を受けた  
子どもたちという事で一般の  
みなさんは、相応心に傷を持つ  
た暗い子どもたちが生活して  
いるのかな?と想像するかも  
しれませんが、ほとんどの子ど  
もたちは明るく元気で、そのよ  
うな雰囲気は感じさせません。

むしろそのような中を生き  
抜いてきたという事で逞しい  
ぐらいなのかもしれません。し  
かしながら、その内面は計り知  
れないほどのつらい体験をし  
てきているのも事実です。施設  
の子どもたちを理解するまで、  
この両面を理解していただく  
ことは特に大切だと感じます。

毎年多くの皆様が見学に来ら  
れたり、寄付をしてくださった  
りしてはいますが、施設の子ども  
たちは、自分たちが特別な子ど  
もたちと見られたり、同情され  
ることは好みません。ご支援し  
ていただく立場でたいへん申  
し訳ありませんが、外部の方々  
に対しては「子どもたちに対し  
て同情ではなく、応援してく  
ださい」と申し上げていると  
ころです。

施設の子どもたちの生活費  
は生活保護の基準に則して国

から支給されています。です  
から学校に行く費用、学用品など  
は特に困るわけではありませ  
ん。食事などもベテランの栄養  
士が献立を考え、調理員が心を  
込めて提供しておりますから、  
高級な食材こそ使えませんが  
一般家庭より食生活は豊かか  
もしれません。

では何に困っているかと言  
うと、小学生であれば子ども  
の才能を伸ばすために習い事を  
させている家庭も多いと思  
いますが、そういう費用はありま  
せん。高校受験は私立高校には  
行かせられないため公立一本  
勝負となります。勤勉で才能の  
ある子でも大学に進学する費  
用はありません。

社会人として大人となって  
いくまでには様々な失敗を経  
験します。失業してアルバイトを  
追われて、行く所がない。また、  
彼氏との間に子どもができて  
しまったが、産むお金もおろす  
お金もない。そんな切羽詰ま  
った状況で担当した職員にSO  
Sの連絡が入るのです。施設は  
子どもを送り出すだけでなく、  
その子どもたちが社会人とし  
て自立していくまで責任があ  
るのです。それには、まだまだ  
人もお金も十分でなく後援会  
の皆さまの支援に頼っている

状況です。



育院院ではキリスト教精神  
に添った養育精神を理念に掲  
げておりますが、日々の生活の  
中で、全体でお祈りをする  
か、日曜日に礼拝に行くとい  
うことは信教の自由の関係もあ  
り、今は実施しておりません。

しかし、職員のみなさんには  
人は過ちを犯すもの(放蕩息子  
のたとえ話のように)、しかし  
ながら、その過ちを悔い改めた  
時に、再び過ちをおこさないよ  
うに諭し、心から喜んで受け入  
れてあげようと話しあってい  
ます。私たちは、子どもたちの  
ために神様の祝福をいただい  
けるよう日々励んでまいりたい  
と願っています。

状況です。

地区委員会報告

編集後記

●二〇一四年度第五回委員会

日時 十一月十一日(火)  
会場 埼玉新生教会  
出席 十名

◇委員長報告

\*教会・教師の情報

・九月二十八日(日)、武蔵豊岡教会の献堂式が行われた。  
・十月六日、白岡伝道所・福島聖二牧師が逝去され、十三日(月)前夜式、十四日(火)葬儀が行われた。  
・十月二十六日(日)、浦和東教会の献堂式が行われた。  
・教区常置委員会(十一月十一日)の報告がなされた。

◇会計報告

九月・十月と十一月十一日までの一般会計の報告が書面でなされた。  
◇各委員会・各部等の報告がなされた。

【主な協議事項】

一・教会全体修養会の件  
・二区の信徒委員は市川浩兄(飯能)に決定したことを承認した。  
・協力委員については、上尾合同教会員に依頼する。  
二・クリスマスプレゼントの件  
七教会・七名、隠退教師十二名、合計一九名に差し上げる。問安者を決定し、問安出

来ない教会はクリスマスカードと共に郵送することとした。

三・新年合同礼拝の件

・各会場の説教者を決定した。  
・教誨師研修会費用の献金を募る。アピール担当者は一区・金田、二区・山岡、三区・布村。  
・プログラムは、教師部で最寄り区毎に作成する。  
・ポスター、地区デー献金の袋は地区書記が作成し、十二月七日までに各教会へ郵送する。

四・地区総会の件

日時 二〇一五年三月二十一日(土) 九時三十分  
会場 武蔵豊岡教会  
五・地区総合協議会の件  
日時 二〇一五年二月十三日(金) 十九時

・会場 埼玉新生教会  
・協議会に先立って、各委員会・各部の書記より地区書記へ次年度の委員会及び行事日程をメールで送り、あらかじめ日程表を作成して協議会に臨むことが確認された。

閉会祈祷 末 永廣

●二〇一四年度第六回委員会  
日時 一月二十日(火)

会場 埼玉新生教会  
出席者 十一名  
◇会計報告  
十一月・十二月と一月二十日までの会計報告がなされた。  
◇各委員会・各部等の報告がなされた。

【主な協議事項】

一・新年合同礼拝開催の反省と申し送りに関する件  
・三会場参加者の合計は五九教会、三六二名。  
・教誨師研修会のための献金は必要額が満たされた。  
二・教区教会互助「教師謝儀互助」申請の件

・秩父教会、鳩山伝道所、桶川伝道所、深谷西島教会、加須教会より教区教会互助「教師謝儀互助」の申請があり、これを承認した。  
三・地区総会に関する件  
・開会礼拝の司式者は、豊川昭夫委員、説教者は、川中真牧師に決定した。

四・二〇一五年度予算の件  
会計担当より提出された二〇一五年度埼玉地区分担金割賦案と一般会計予算案を承認。

五・奏楽者派遣の件  
・十一月十一日に行われた「伝道所・集会所との懇談会」で、奏楽者がいないので奏楽者を派遣して欲しいとの要望があった。これを受け、出張して奏楽をしていただけの方を求め、伝道所へ地区が派遣するシステムについて検討した。

閉会祈祷 野村 忠規

●二〇一四年度第七回委員会  
日時 二月十七日(火)  
会場 埼玉新生教会  
出席者 十一人

◇修養会委員会より、吉田武人委員(鴻巣)の後任として、鈴木祐子委員(熊谷)が就任する報告があった。

【主な協議事項】

一・地区総会の件  
・推薦正議員、准議員、推薦准議員の名簿について確認した。  
・総会の議案、役割分担について決定した。

・三月二十日(金) 十四時より、武蔵豊岡教会で前日準備を行う。  
二・礼拝奏楽者派遣の件  
・二〇一五年度宣教活動計画の中に織り込み、総会の議場で意見を出していただく。

三・会計監査の日程の件  
・二月二十六日、十五時から、西川口教会で会計監査を行う。監査委員は藍田修牧師(鳩山)と石川幸男兄(大宮)。

閉会祈祷 山岡 創

今年度最後の編集作業を無事に終え、地区通信四十三三号をお届けいたします。

この一年、埼玉地区の「主にある交わりを深めよう」の主題の下に企画された各委員会・部会の行事や活動の報告、また、新任教師の紹介や教師への追悼文など、その都度のことなどを含めて編集し、各教会・伝道所・集会所の皆様が、この地区に連なる者としてその働きを覚え、その恵みに与る事を願いつつ、編集作業に努めてきました。

年間を通して各号毎に寄稿に快くご協力くださいましたこと、特に、今年度の『特集』におきましては、地区内の三つの児童養護施設に寄稿していただきました。多くの方々のご協力を心から感謝いたします。当委員会は、委員長であった三井田忠昭氏が都合により委員を退くこととなりました。ユーモア溢れるお人柄と共に楽しくご奉仕できたことを一同感謝しています。

新年度は二人の委員を得て七人で働きます。よろしくお願ひいたします。(茨木)

特集

# 婦人部だより

No.33

## 弱い時にこそ強くなれる

婦人部委員長 中松 聖美

「キリストに結ばれて苦しみを分かち合い、福音の希望に生きる」ーコロサイの信徒への手紙に学びつつーの主題の下、二年間の務めが終わろうとしています。「やっとここまで来たね!!」と口々に衝いて出る言葉は、安堵と共に短くて長かった時の流れを思いおこしながらしみじみと顔を見合わせた瞬間でもありません。

よちよち歩きから一人ひとりが一年の経験を通して学んだことを土台にしてゆつくりと一人歩きを始めるようになり、意見も活発に出し合い柔軟に対応してまいりました。弱さや欠けの多い中での出発ではありませんでしたが、このような中こそ主が働いてくださり、未経験な私たちを強め、励まし、慰めて用いてくださいましたことを心から感謝いたします。弱い時にこそ強くなれることを

実感した年でもありました。また、良き友を得たことは大きな喜びです。私たちは喜びも苦しみも分かち合い支え合った仲間として、教会は別々であったもこれからも主に在って一つとなり繋がっていくことでしょう。

さて、二〇一四年度総会において多くの方々から教会の現状が話されました。私たちはこれらのご意見を受けて、再度もより婦人研修会について討議の一つに加えていただくようにしました。各プロックの具体的なご意見と貴重な提案のご報告をいただき、実情をより把握することができました。二は大変良かったと思います。二〇一五年度の総会資料に掲載し共有したいと考えています。東日本大震災の被災地の皆様と建築途上にある教会を覚え祈り続けます。

めにも続けてご支援賜りますようお願いいたします。(武蔵豊岡教会)

### ☆全体研修会報告

婦人部書記 小川 洋子

二〇一四年七月七日(月)に埼玉新生教会にて、「キリストに結ばれて苦しみを分かち合い、福音の希望に生きる」ーコロサイの信徒への手紙を学びつつーの主題のもと、講師に高橋克樹先生(豊岡教会牧師、日本聖書神学校教授)をお招きして『新しい人』に生まれかわるために』と題して講演をしていただきました。あいにく雨もあつて皆様の出足が心配されましたが、三十三教会・伝道所・集会所より一三名もの方々が参加してくださいました。

高橋先生の講演は二つに分かれており、午前中は「上手に『古い自分』を死なせる苦難や悲嘆がチャンスに」、午後は「『新しい自分』をキリストで育てる」『関係の命』に目覚める」と題して行われました。ご自分の経験をふまえて、いかに自分を襲った悲しみや不条理を乗り越えるかについて話してくださいました。

大きな苦しみには会わないですむならその方が良いと思っていました、自分の思い通りにことが運んでいるときは、神さまとの関係が希薄になっていくこともまた事実です。不幸を神さまからいただくことで、はじめて真剣に神さまと向き合い、神さまに対してどのように生きるかということを考えるのが私たち人間ではないでしょうか。その時、神さまに向かつてどのようなレスポンスをするかと思うとき、やはり日頃からみことばに触れ、常に神さまに土台をおいた生き方をするこの大切さを強く感じました。弱く愚かな自分を受け止め、悔い改めて他者より良く共生していくことを心がけることで、先生が教えてくださいました「関係の命」を育んでいきたいと思います。

最後になりましたが、皆様のご協力もあり、今年もこのよう素晴らしい学びの場を与えられたことを感謝します。これからも、婦人部の歩みに神さまのお導きと祝福がありますようにお祈りいたします。(埼玉新生教会)

### もより婦人会研修会

### ☆第一プロック

久美愛教会 田島 悦子

十月十六日(木)、前日の雨も上がり、美しい青空と秋の日差しの中、久美愛教会を会場に感謝の内に研修会を守る事ができました。

当教会は、十六年間、代務牧師によって導かれてきましたが、二〇一四年四月より遠藤公義牧師を招聘することができ喜びと感謝でいっぱいです。教会堂も昨年十一月に献堂式を行いました。地域に開かれた教会として、これからも牧師とともに歩んで行きます。

今まで沢山の問題を一つずつ解決でき、皆さまの温かい見守りと祈りに感謝申し上げます。

す。私たちの婦人会は、皆さまとの出会いとお交わりを続けていきたいと思えます。

六教会・三十三名出席。

### ☆第二ブロック

埼玉新生教会 小川 洋子

十一月十七日(月)、七里教会にて第二ブロックのもより婦人研修会が開かれました。

七里教会に来られたばかりの太田光夫先生による礼拝(説教題・キリストを見出す)と先生自らのリコーダー、ギターによる伴奏で賛美の時を過ごしました。説教は良きサマリヤ人の話で、登場する六人の異なった立場の人々の中で、イエスの役割を担っているのは誰なのか、考えるひと時を与えられました。イエスさまは、弱い私たちの隣人(旅人)となって私たちを招いておられます。主イエスに会える機会を逃さないようにしたいものだと思います。

礼拝後は、先生の楽しいお話を交えたクリスマス・ソングのご指導があり、礼拝堂に参加者四十五名の歌と笑いが溢れました。

### ☆第三ブロック

岩槻教会 太田 直美

十月十三日(月)、当教会の川中真牧師によるオカリナの奏楽「心を高くあげよ」の賛美で礼拝・講演・交わりの時が与えられた。

礼拝ではジョニー・エレクソンの話・妻の死・信徒の死・牧師自身の臍胸を患った苦しみを話された。

講演はルターの生い立ち・弟の死・友の死・彼が雷に打たれ瀕死に近い体験から、復活は十字架の向こうにあるとかつて聞いた言葉は深く受け止められた。無い物ねだりをせず、今を感謝し、しっかりと目を向けて生きなさいとのメッセージをいただいた。大型台風十九号接近に「思い煩いは何もかも主にお任せしなさい。」とのみ言葉は真実で力強いものでした。

主に在ってすべてを感謝。七教会、三十二名参加。

### ☆第四ブロック

北本教会 植田 真理

第四ブロックもより婦人研修会は、十月十八日(土)、皆様のお祈りと尊い献金で再建された北本教会で持たれました。七教会から三十七名の参加者で新会堂が満たされた事は、私共にとつて大きな励ましであり感謝に堪えません。

鴻巣教会の川染三郎牧師から「御言葉に堅く立つ教会」と題し講演を頂きました。教会は聖書に証されているイエスさまがお働きになる所です。そのお働きに与かるのが肢体である私たちであると、教会のあるべき姿を解き明かす力強いメッセージでした。み言葉に整えられる信徒になりたいと送り出された一日でした。

### ☆第五ブロック

毛呂教会 藤波 陽子

もより五区では十月三十一日(金)、毛呂教会を会場に七教会一伝道所からの四十名の参加者で行われました。

澁谷弘祐牧師による開会礼拝の後、婦人部より提案のあった今後の婦人部活動について

の話し合いの時が持たれました。

高齢化や仕事を持つ婦人の増加により活動できる婦人が少なくなつた現状の中で、創意工夫して行っている教会の様子等々の発表があり、もより婦人研修会会場や世界祈禱日の当番教会を担う事も前向きに捉えていこうと話し合われました。

午後は、高草木姉の導きにより楽しい賛美の時を持ちました。

一年に一回、信仰を同じくする近隣の諸教会の姉妹方と学び、楽しい交わりの時を与えられることを感謝します。

### ☆第六ブロック

川越教会 小林 直子

十月二十七日(月)、川越教会を会場として開かれ、八教会、四十二名の参加でした。

開会礼拝は、狭山教会の森淑子牧師が「人ではなく神を見上げる」との説教題で話されました。

木ノ内牧師の講演は、「秘められた計画、真理の持つ二面性」と題して、聖書の中から幾つかの例を挙げて話されました。

講演の後、五つの分団に分かれて昼食をとりながら、各教会の婦人会の様子や今後の婦人部活動について話し合いました。

最後の全体会で各グループの司会者が報告をされましたが、どの分団においても、和やかなうちに活発な意見交換がされたようでした。よい学びの一日でした。

### ☆第七ブロック

深谷西島教会 竹内 成子

十月四日(土) 午前十時半、深谷西島教会において、もよりの教会から三十三名の参加者が一堂に集い、恵まれた研修を持つ事ができました。感謝します。

礼拝や講演の中で、信じた基本と始まりを確認する恵みと与かり、聖霊が証印を押して下さっている事実と安心を覚えられました。御名を賛美します。

同じ主を信じる聖なる者たちの中に居る励ましと慰めを受けて、翌日の礼拝準備や家庭へと遣わされて行きました。

もより婦人研修会があるからこそ、他の教会へ行き、他の牧師の話や聞くなどの良い機



会が与えられるのだという建設的な意見もあり、もより婦人研修会の意義について改めて、忌憚なく話し合う恵みにも与かりました。

同じ主にある兄弟姉妹の交わり、公同の教会にある者の幸いを深く味わえ感謝でした。

### アジア学院研修生 ホームステイ プログラム

このプログラムは、西那須野にありますアジア農村指導者養成学校(アジア学院)で、八か月の研修を受けるために、毎年四月、アジア、アフリカから来日される約三十名の方々を、全国教会婦人会連合の世界教会運動委員会が主催して行う二泊三日のプログラムであります。研修生にとって、初めての日本でのこのプログラムの経験は、八か月の研修期間の中で有意義な経験の一つとなっていることと思います。東京教区、西東京教区、神奈川教区、そして埼玉地区でホストファミリーを引き受けています。二〇一四年度は、六月七日(土)〜九日(月)に実施し、当地区では四人の研修生を迎えました。

### 《ギターを爪弾いて》

安行教会 齋藤 勝子

六月七日(土)、入梅と共に今年は、インドネシアからのケニーさんをお迎えいたしました。彼女は、子ども好きの二児の母親です。我家でも教会でも子どもたちとごやかに過ごしました。



食事野菜が特に好きと言います。食卓を囲みつつ学院の様子、家族の話で盛り上がりました。

一番びっくりしたのはギターを弾いて日本のうた「ほーら足元を見てごらん」と歌い始めたのです。とてもきれいなやさしい声で…。意味もちゃん

と調べながらの歌で心に残りました。

十月の収穫祭には一緒に歌う約束をして名残りを惜しみました。

### 《良き交わりの時に感謝》

所沢まくに教会 最上 千都

私たちの教会では、毎年、那須のアジア学院留学生をお迎えし、教会員との交わりの時を持つています。

今年、バン格拉デシュからレハナさんとカメルーンからのコリンズさんのお二人が来てくださり、みんなで迎えることが出来ました。

それぞれのお国の事やご家族のお話を沢山お聞きすることが出来ました。



教会では、礼拝や食事を共にし、子どもたちとは、折り紙遊びやお茶屋さん体験をするなど、楽しい時を過ごすことができました。

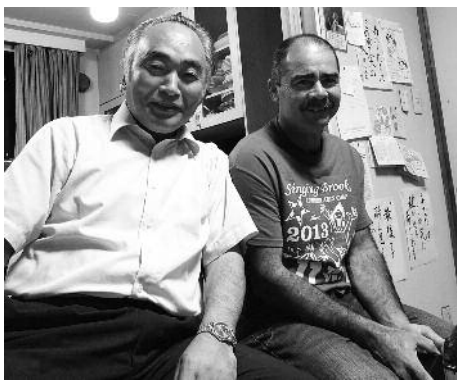
アジア学院の留学生は皆、母国の人々のために懸命に学ばれている様子を知ることが出来ました。

お二人との交流を通して、私たちも他者のために喜んで働ける者でありたい、とあらためて思いました。

### 《ホセさんを迎えて》

東京聖書学校吉川教会 深谷美歌子

六月七日(土)、研修生の歓迎会(婦人会連合の世界教会運動委員会主催)会場となりました。



た行人坂教会に、伝道師の佐々木千沙子師がお迎えに行き、ホセ・アントニオ・サンチェスさんがやってきました。

当方は、東京聖書学校吉川教会の名が示す通り、東京聖書学校という牧師養成学校が設置した教会です。寮があり、学生と交わり、お食事寝起きも共にしていただきました。

彼はキューバで農業指導をしておられる方で、微笑みを絶やさない素敵な紳士でした。

日曜日は、吉川教会で礼拝を共にし、午後は、神学生がイオンレイクタウンへ案内しました。



夕食は、神学生たちと牧師館で手巻き寿司、お好み焼き。写真を見せていただいたり、ボディーランゲージでの楽しい交わりの時をもちました。